

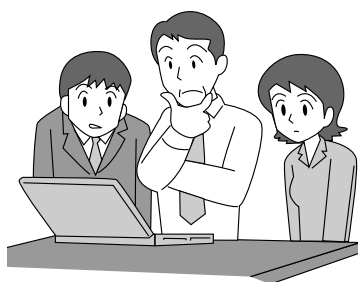
事例 1

教室に入れなくなり保健室登校をはじめたゆきさん (小学校1年) LD (学習障害)



「運動会、もうだめだ」

運動会前にかいた木。不安のためか倒れている。



ゆきさんはとてもよくしゃべる女の子。友だちとのトラブルが続き、「掃除の仕方が分からない」「並び方が分からない」などの不安から、4月末より教室に入れなくなりました。

保健室を居場所にするゆきさん

保護者の悩み ←→ 担任・養護教諭の気づき

○どうして学校を嫌がるの？ ○認知面のアンバランス？



ことばの教室での教育相談

医療機関からの助言
(資料3)



校内委員会(就学指導委員会)での諸検査の実施(資料2)

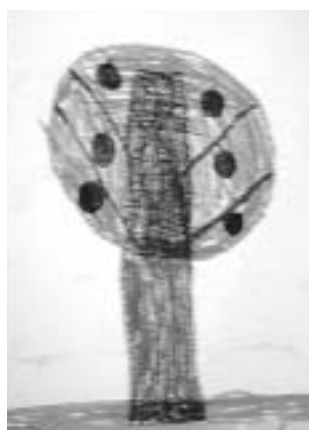
<支援のポイント>

ことばの教室

- 個別の指導計画(資料1)に基づく特別な支援
- 医療機関のアドバイスの具体化
- 母親への支援(カウンセリング)

通常の学級・保健室

- 認知の特性に応じた支援
- 安心していられる学級集団づくり
- 保護者との連携



「少しずつ分かってきたよ」

運動会後にかいた木。自信がついたのか、木がしっかりと立ち上がった。

通常の学級の中で安定



運動会に参加できたことで自信をもち、教室に少しずつ行けるようになりました。友だちとのトラブルや新しいことにまだ不安はありますが、ことばの教室にも通いながら、休むことなく通常の学級での生活を送っています。

●保健室を居場所に

ゆきさんは入学後、友だちとのトラブルが続き、「掃除の仕方が分からない」などを理由に登校を渋るようになりました。担任が家庭訪問すると「保健室ならいい」と保健室登校を始めました。物おじせず人と話したり字を読んだりするのに、人とのかわり方や整理整頓が苦手で、順番や日常的なルールがなかなか覚えられません。認知面のアンバランスさを疑った担任と養護教諭は、ことばの教室に相談しました。ことばの教室では、母親との教育相談や諸検査を実施し、集団不適應の状態になっている原因を明らかにして、支援の方法を探ることにしました。

●認知の特性に応じて支援を工夫

検査の結果

WISC-Ⅲ : 言語性IQ > 動作性IQ (有意差あり)

K-ABC : 継次処理能力 > 同時処理能力 (有意差あり)

※用語についてはP58参照

諸検査の結果から、認知面でのアンバランスのあることが集団不適應の原因ではないかと考えました。校内委員会では、ことばの教室への通級と医療機関との連携が決まりました。

ことばの教室担当は、継次処理能力が優位なゆきさんと一緒にスケジュール表を作るようにしました。スケジュール表で「教室」と決めた時間は、「自分が決めたから」と行ける日もできました。保護者には諸検査の結果を伝え、医療機関の受診を承諾していただきました。

●医療機関のアドバイスから支援を工夫

ゆきさんはLDと診断されました。医師の助言から、「まず見学から始める」「本人がやれそうなところから参加する」「いつも〇〇さんの後ろに並ぶ」「隣の□□さんが、出番などを教える」などの支援の方針を立てました。母親とは、「嫌だと思ふことは、無理にやらせない」「叱らず褒める」「得意なことができるようにする」ということを確認しました。

ある日、母親から「運動会の練習が不安で登校を渋って泣いているゆきさんに『その場にいるだけでいいよ』と言うとほっとした様子で登校を始めた」と、うれしそうな声で電話がありました。家庭との連絡を密にして練習を進めた結果、運動会では全種目に出場できました。

ことばの教室では、心理療法士のアドバイスから、場面や状況を読み取り判断する力や言葉の意味理解の力などを高める指導を行いました。また、担任と相談して、運動会の支援の仕方、当番や掃除の手順表の掲示、注意を集中させてからの説明、分かりやすい板書の工夫、注意が集中するよう前から2番目の席にするなど、教室で配慮する内容を確認し合いました。

●教室へ行けるようになったゆきさん

12月のある朝、「もう大丈夫」と自らかばんを持って教室に行き、その日から教室を中心とした生活をするようになりました。まだ、友だちとのトラブルはありますが、「分からないことが多い学校生活」から「分かることが増えつつある学校生活」になってきているようです。

【資料1】ことばの教室における個別の指導計画

児童氏名		ゆき	小学校 1年	週1回 通級
児童 の 実 態	生育歴 家庭環境 諸検査 医学的所見	<p>主 訴：言われていることや状況が分からず不安になりやすい。 人の気持ちを考えずにものを言うので友だちとトラブルになることがある。</p> <p>家族構成：父、母、本児の3人家族。</p> <p>発 達 面：乳幼児期→人見知りなし。初語：1歳2か月。歩き始め：1歳3か月。すぐ気が散る、どこかそわそわしている、物の置き忘れがあるなど不注意の面があった。</p> <p>検査結果：WISC-Ⅲの結果 言語性>動作性（有意差：5%） K-ABCの結果 継次処理>同時処理（有意差：5%） 他は有意差なし</p> <p>診 断：学習障害（小1 ○○医院）</p>		
	言語症状	<p>○ 認知面のアンバランスや情報の取り入れ方の偏りがあり、場面や状況の読み取りや判断が難しい。</p> <p>○ よくしゃべるが、言葉の意味理解面の弱さがみられる。</p>		
	本人の願い	<p>○ みんなと同じように楽しい学校生活をしたい。友だちと一緒に遊びたい。</p> <p>○ ルールや先生の言っていることなどが分かるようになりたい。</p>		
	学校での様子	<p>○ 話し好きで、本を読むことが好き。知らない人にも気軽に話し掛ける。</p> <p>○ 学校生活やゲームのルール・順番などが分かりにくい、教師の指示が通りにくい、新しい状況や環境への適応がうまくできない、思ったことをパッと一言で言うので友だちとトラブルになりやすい、忘れ物が多い、整理整頓ができにくい、ケアレスミスがあるなどがみられる。</p>		
	家庭での状況・願い	<p>・小さいころから字の読み書き、鉛筆の持ち方、なわとびなどを教えてきた。大切にしている反面、命令的にかかわっていることもある。宿題や行事などで不安になって泣くことがある。</p> <p>・喜んで学校に行ってもらいたい。状況や人の気持ちが分かるようになってほしい。</p>		
目標	<p>1 自分で決めた活動に、目当てや見通しをもって喜んで取り組み、満足感や成就感を味わうことができる。</p> <p>2 場面や状況に合った言葉の意味を理解し、相手や場面に応じた対応やコミュニケーションができる。</p>			
指導の方針	<p>1 実際の体験や具体物（半具体物）と言語（文）を対応させたり、場面と記述を結び付けて示したりすることで、場面と記述を結び付けて状況を理解したり、場面や状況に合ったことばの意味を理解したりすることができるようにする。</p> <p>2 本児の興味関心にそい、得意なしゃべることや読むこと・書くことを取り入れる。実感することや体験することも取り入れるなどして、本児が喜んで取り組めるように配慮する。</p> <p>3 注意の集中を図るために、聴覚情報に加え、興味のある視覚情報も利用しながら学習を進めていく。</p> <p>4 指導に当たっては、本児の得意な継次処理能力を生かした指導（段階を踏む、部分から全体へ、順序性を重視する、聴覚的・言語的な手掛かり、継次的・分析的な情報の示し方）を用いるが、興味のある視覚的情報を取り入れながら、同時処理能力も育てるようにする。</p>			
指導内容	<p>1 体験的学習→遊具を使った感覚統合的な遊び・手芸活動・調理活動などを実施する。その時、絵や写真に簡単な文が添えられたものを使う。継次的に提示するためにカード方式のレシピや手順表を使う。常に言葉の意味と体験を対応させる。</p> <p>2 お話づくり→ままごと遊びなどしながら、お話をつくって遊ぶ。吹き出しのある絵に言葉を入れる。→4枚の絵を順番に示し、教師とともに場面に合ったせりふやナレーションを考えながらお話づくりをする。役を交代したり吹き出しにせりふやナレーションを書いたりして、登場人物の気持ちや状況・場面に合った言葉を考える。</p> <p>3 ゲーム・ことば遊び→好きなキャラクターのゲームをする時に、端的にルールを説明したり実際にやったりしながら、ルールに沿って遊ぶことの楽しさを味わう。</p>			
学級での指導	<p>安心して学校生活が送れるように、家庭・ことばの教室・保健室・医療機関と連携する。</p> <p>1 ことばの教室や医療機関からのアドバイスを受けながら、認知の特性に応じた配慮・支援を行う。</p> <p>2 家庭や保健室と日常的に連絡を取り合いながら、母親やゆきさんとの信頼関係を深めていく。</p> <p>3 ゆきさんが安心していられることができる学級集団づくりを行う。</p>			

【資料2】 諸検査の結果から

WISC-III

- (1) 知的水準は平均である。
- (2) 言語性IQ > 動作性IQ
差が30近い(5%水準で有意差あり)。
- (3) 下位検査では積木が低い。

K-ABC

- (1) 継次処理尺度 > 同時処理尺度 標準得点の差が20近い(5%水準で有意差あり)。
- (2) 下位検査では数唱やなどなどが強い。文の理解が弱い。

○ WISC-III 検査後の対応

単なるしつけや指導及び本人の怠けの問題でなく、本児の認知にアンバランスがあることによって起きている不適応ではないかということをも母親や担任に伝える。医療機関での受診を勧める。

○ K-ABC 検査後の対応

どの時間をどこでやるかを連絡帳の時間割欄に担任や養護教諭と相談しながら記入し、見通しを立てる(ゆきさんのスケジュールづくり [一日の構造化])。

- (1) K-ABCでは同時処理、WISC-IIIでは動作性の評価点が低いことから、場面や状況の読み取り・判断が難しいようだ。
- (2) WISC-IIIの積木の評価点が低いことから、視覚認知(空間認知)が苦手だと予想される。そのために、空間認知・順番などが分かりにくいようだ。
- (3) 言葉の理解が高そうに見えるが、「言葉で説明されるものは難しい」「長い文章が分かりにくい」ことから、読むことや話すことはできるが、言葉の意味を理解していくことが苦手なようだ。
- (4) 情報入力の方では、簡単な言語指示や意味のある体験や具体物などを、一つずつ提示していくと理解しやすいと思われる。

【資料3】 医療機関からの助言

<家庭へ>

- 本人が嫌だと思ふこと、だめだと思ふことは、無理にやらせなくてもいい。
- 家庭では、感情的に怒ってはいけない。
- よい面を褒める。
- 得意なことに取り組む。

<学校へ>

- 居場所(保健室でも情緒障害自律学級でも、本人の行きたいところ)を大切にす。
- 新しいことは、まず、見学から始める。運動会も、できる種目に出られればよいと考える。
- 抽象的なことは理解しにくいので、具体的に場面を分かりやすくし、言葉を具体的にす。
- できるだけ短い言葉を繰り返す。
- 並び順が分からない→具体的に、～さんの後ろ・目印・この時は～の後ろなど分かりやすくす。
- 意味理解の問題→実感すること・経験することが大事。
・本とビデオが一緒になっている教材がよい(場面と記述を結び付けてとらえることが大事)。
- 活動に際して
・全体的な流れをあらかじめ分かっていることが大事(スケジュール・新しい状況への取り組み)。



連絡帳に書かれたゆきさんのある日の日課
左は学級、右はゆきさんのスケジュール



ことばの教室
<調理活動>
カード式のレシピで
継次的に作り方を示す。